

市町連

MORIOKA

盛岡市町内会連合会広報

No. 112
令和6年
2月号

◆特集◆
市町連
新年交賀会

年3回：7月・11月・2月発行

発行・編集
盛岡市町内会連合会
盛岡市若園町2-2
(盛岡市総合福祉センター)
TEL 623-4690
FAX 623-4699
印刷/杜陵高速印刷株式会社

令和6年 新年交賀会

令和6年新年交賀会が、盛岡市長はじめご来賓の方々と町内会長合わせて127名のご出席をいただき、1月18日(木)ホテルメトロポリタン盛岡において開催されました。

当日は、教育振興部会主管による特別講演会「南極から見た地球の未来・地域の未来」を併せて開催しました。

また、新年交賀会に先立ち、能登半島地震で亡くなられた方々のご冥福を祈り、黙とうを捧げました。



年頭のごあいさつ

会長 小枝指 好夫

まずもって、この度の令和6年能登半島地震により犠牲となられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災地域の日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が2類から5類に移行し、私たちは徐々に日常を取り戻しつつあります。当連合会におきましても定期総会、表彰式、講演会などの主要な事業はほぼ計画どおり開催することができました。

本年7月に当連合会は創立60周年の節目の年を迎えます。現在、記念事業実行委員会が中心となり準備を進めておりますが、皆様におかれましては事業の成功に向けて、より一層のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

少子高齢化・価値観の多様化など町内会・自治会は難しい時代を迎えておりますが、今こそ町内会・自治会活動の価値を再認識し、未来志向の活動へ転換するチャンスと捉えることもできるのではないのでしょうか。

当連合会といたしましては、盛岡市をはじめ関係機関・団体の皆様と価値観を共有しながら、市勢の発展に寄与してまいりたいと存じております。皆様にはよろしくご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

来賓ご祝辞(要旨)

【盛岡市長 内館 茂 様】

年が明けた1日、能登地方で最大震度7を記録する大きな地震が発生しました。すでに本市から職員との派遣を開始しておりますが、今後も全国市長会等と連携して、継続的に支援を行ってまいります。

盛岡市町内会連合会の皆様におかれましては、新たな気持ちで新年をお迎えのことと存じます。明るく住みよいまちづくりにご尽力いただき、心から感謝を申し上げます。

市長に就任して以降、市政運営の柱に市民との対話を位置付けて多くの方々から直接お話を伺ってまいりました。

盛岡市町内会連合会様との座談会では、町内会の抱える課題や市の将来像などについて御意見をいただく中に、私に対する期待の大きさも感じたところです。盛岡の魅力さをさらに磨き上げ、市民が誇りを持てるまちづくりに取り組むとともに、「より優しく、より強い盛岡」の実現に全力を尽くしてまいります。



【盛岡市議会議長 遠藤 政幸 様】

能登地方での大地震により、亡くなられた方々のご冥福をお祈りし、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

日頃より盛岡市のまちづくりにご尽力をいただいております皆様へ、心から感謝を申し上げます。

昨年、ニューヨーク・タイムズ紙において「行くべき52カ所」に選ばれ、盛岡市が大いに注目されました。これもひとえに、「住み良いまち盛岡」の実現のため町内会の皆様方と行政が連携を深め、協働のまちづくりに取り組んでこられた賜であります。

町内会など地域を取り巻く環境は大きく変化しており、課題が多様化・複雑化してきております。市議会におきましても、地域の皆様方の声をお聞きしながら、皆様と一緒に住み良い地域社会の実現に向けて、今後とも力を尽くしてまいります。



【盛岡市社会福祉協議会会長 佐藤 光彦 様】

能登半島地震で犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。

日頃より、地域福祉の推進に力を尽くされている町内会役員の皆様へ心より敬意を表する次第です。

地域社会においては、少子高齢化の進行とともにさまざまな地域生活課題が複合化、複雑化、深刻化してきております。このような中において、地域づくりの牽引役となってご尽力いただいております皆様方に改めてお礼を申し上げます。

市社会福祉協議会では、第二期地域福祉活動計画に掲げております「人と人がつながり 共に支え合うまちづくり」の実現のため、地域住民の皆様と手を取り合い、積極的に地域福祉活動を推進してまいりますので、今後ともより良い地域づくりのため一層のお力添えをお願いいたします。



新年交賀会
特別講演(要旨)

「南極から見た地球の未来・地域の未来」

岩手日報社報道部第二報道部長
報道部記者

鹿糠 敏和氏(49次南極観測隊)
菊池 健生氏(63次南極観測隊)

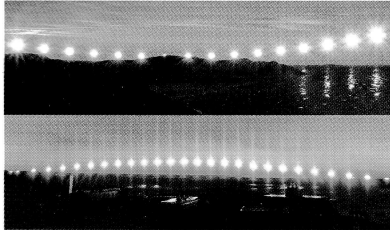
63次観測隊は2021年11月、新型コロナウイルスの影響で飛行機を使わず、日本から観測船「しらせ」に乗り14,000キロ、40日をかけて南極に到着しました。

*南極大陸は広大な氷の塊

南極大陸の氷は長い時間をかけて積み重なってできたもので、厚さは4,000メートルもあります。昭和基地の真冬の気温はマイナス45度。平均気温は1月だけみると盛岡マイナス1.6度、昭和基地はマイナス0.8度で夏は南極の方が暖かい。

*「沈まぬ太陽、夏の白夜」、「昇らぬ太陽、冬の極夜」

南極は11月下旬から1月中旬まで「白夜」の時期で太陽が沈まずに一日中頭の上を回っています。紫外線が強いですので朝昼晩に必ず日焼け止めを塗ります。



沈まぬ太陽、転がる太陽(岩手日報社提供)

5月下旬から約1か月半は一日中太陽が昇らない「極夜」に入りますが、太陽が昇らないと心身ともに体調を崩しやすくなります。

観測隊は一つのコミュニティーであり、部屋から出てこれない人へのアプローチは町内会とも似ています。朝食での顔合わせ習慣、生活にメリハリをつけるイベント企画、ベテラン隊員の気遣いなどで困難を乗り越えていきます。

*プロフェッショナルは各分野1人だけ

南極では、宇宙、地質、動植物などさまざまな研究を行います。各分野ともプロは1人だけ。どの仕事も隊員が力を合わせて成し遂げていきます。昭和基地は一つのコミュニティーなのです。

*オーロラに感じた地球の生命力

「南極は退屈ではないか」と必ず聞かれます。そのとおりですが、だからこそアイデアを出し合って、野球大会、釣り、野菜づくり、カフェ、氷上流しソーメンなどさまざまな娯楽を作り出します。

娯楽が少ないので食事への期待はものすごく高いです。曜日感覚を失わないように毎週金曜日は必ずカレー。食事は生活に変化を与えるという大切な一面を持っていることを実感します。

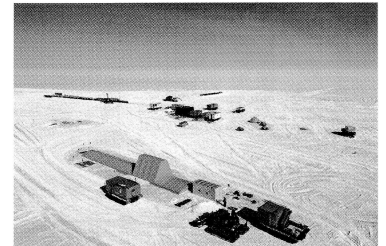
人間の「アイデア」ではかなわないのが「自然の楽しみ」です。オーロラをずっと見上げていると音がないのに、生き物のような生命力を感じます。太陽からのエネルギーが地球を包み込んでできるオーロラは、南極に出るときには北極でも見ることができます。

*南極で地球温暖化を調べる

気候変動を把握するため十万年単位での傾向を見たい。昔のことを調べるには、恐竜がいたことを示すように化石を調べればわかります。南極には昔の空気気温の化石があります。何万年もかけて堆積された氷です。3,028メートルまで掘って調べた結果、72万年前の二酸化炭素の濃度が300ppm、現在は400ppm。明らかに温暖化の原因物質が増えていることがわかります。

さらに今から100万年前まで調べるため、昭和基地から1000キロ離れた標高3,810メートルの「ドームふじエリア」で世界で最も古い氷の採掘を目指し、掘削場建設を開始し、その作業に参加しました。

掘削場近くに整備した居住スペースは将来、日本が月面基地を建設する際の参考にするためJAXAの実証実験も兼ねています。



ドームふじ掘削エリア(岩手日報社提供)

*南極から見た地球と人間

•地球は大きい、人間は小さい。

オーロラなど地球の息吹、大きさを肌で感じる事ができました。

•人間は簡単に自然を壊してしまう。

研究目的とはいえ、人間は現地の生態系を壊してしまうことがあります。

•人間が力を合わせれば大きなことができる。

自分の命は自分で守り、コミュニティーが形成され、観測隊がミッションを成し遂げるのはまさに地域の「自助」「共助」「公助」と同じです。

普段からコミュニティーを大事にすることで、命を守り、地球を守り、地域の未来をつくっていくことができます。



「南極探見500日」好評発売中
(発行 岩手日報社)

「もりもり」～市長と語ろう！ もりおか盛り上げ座談会～



昨年12月19日に、内館市長と小枝指会長以下当連合会役員との座談会が開催されました。

この座談会は、市民一人ひとりとの対話を市政運営の柱に据える内館市長の要請に応じて実現したものです。

内館市長は、「市長就任から3か月、できるだけ多くの市民の声に耳を傾けてきた。苦情も多かったが建設的な提案も増えてきている」と手応えを語り、当連合会からは、町内会の担い手不足の実態などを訴えながら、今後も市と当連合会が連携してまちづくりを進めていく方向性を確認しました。

内館市長と当連合会役員との座談会は、令和6年度にも開催する予定です。

研修会シリーズ

福祉厚生講演会

去る11月22日、総合福祉センター講堂において福祉厚生講演会を開催しました。当日は約110名が参加し、熱心に聴講いただきました。

約4年前に日本で新型コロナウイルス感染が確認されてから、私たちは想像もしないようなさまざまな困難を経験してきましたが、この講演を通じてウィズコロナと呼ばれる時代に私たちはどのように日常生活を過ごすべきかを改めて確認することができました。

(福祉厚生部会長 泉澤 力)

5類移行後の新型コロナウイルス感染症

講師：盛岡市保健所長 矢野 亮佑 氏

～ウィズコロナ時代をどう生きるか～

★新型コロナウイルス感染症が2類から5類になったのはなぜか

感染症法の分類が2類から5類になったのは「注意しなくても普通の生活を送れるようになったから」ではなく「注意すれば普通の生活を送れるようになったから」です。

※2類は「結核」など、5類は季節性インフルエンザやウイルス性(B・C型)肝炎などです。

★日本が行ってきた積極的疫学調査

疫学調査には「後ろ向きの調査」⇒感染者はどこで誰からうつされたかの調査と、「前向きの調査」⇒感染者はどこで誰にうつしたかの調査があります。ほとんどの国が「前向きの調査」しか行いませんでしたが、日本は両方の調査に力を入れてきました。その結果、空気感染が起きやすいのは「密閉空間」、「密集場所」、「密接場面」、「三密」であることをつきとめました。

※「三密」は日本が世界に発信したエビデンス(科学的根拠・知見)です。

★新型コロナウイルスの特徴

- 初期症状は鼻水・のどの痛みなど感冒に似ています。
 - 潜伏期間に幅があり、無症状から感染性があること、また、軽症・無症状患者が多いため、全例を追うことは不可能であることが対策を難しくしました。
 - 当初は致死率が比較的高かったものの、ワクチン接種の普及、医療体制や治療法確立、診断例の増加(検査数の増加)で致死率は下がってきています。
- ※60歳未満の重症化率は、季節性インフルエンザとほぼ同じですが、60歳以上の重症化率は、新型コロナウイルスが季節性インフルエンザの約3倍となっています。
- 後遺症の発症頻度が高いにもかかわらず、残念ながら特効薬はなく対症療法が現状です。

★ワクチンの効果と安全性

ワクチン接種により、当初は発症者を95%減らすことができました。現在は続く変異等により感染予防効果は当初ほど期待しにくくなっているものの、重症化予防には有効です。

特有の副反応として、一部の若い人に心膜炎・心筋炎を起こすことがありますが、その他重篤な副反応は確認

されていません。一方で接種部位の痛みや発熱など比較的軽微な副反応は、一般的なワクチンより多いです。アナフィラキシーショック(強いアレルギー症状)の発生頻度は10～20万人に1人となっており、従来のワクチンより頻度は高いですが稀です。

※一般的なワクチンのアナフィラキシーショックの発生頻度は100万人に1人

★新型コロナウイルス感染症による二次的健康被害

接触機会や社会活動が少ないと貧困やフレイル等による死亡リスクが増加し、逆に接触機会や社会活動が多いと新型コロナウイルスによる死亡リスクが増加します。生活のバランスをとることが大切です。

★感染症が成立するための3要素と予防

感染症が成立する3要素とは、①何(病原体)が、②どのようにして(感染経路)、③誰に感染しやすいか・誰にとって危険か(感受性宿主)ということです。

予防策としては

- 病原体(やっつける、除去する)⇒手洗い、手指消毒
- 感染経路(遮断する)⇒マスク、手洗い、手指消毒、三密(ワイワイガヤガヤ)回避
- 感受性宿主(抵抗力を高める)⇒ワクチン接種、基礎疾患コントロール

★感染防止の5つの基本

- ①体調不安や症状がある場合は、無理せず自宅療養あるいは受診をする。
- ②その場に応じたマスクの着用や咳エチケットの実施
- ③換気、密集・密接・密閉(三密)の回避は引き続き有効
- ④手洗いは日常生活習慣に
- ⑤適度な運動、食事などの生活習慣で健やかな暮らしを

★強がり過ぎず、恐れ過ぎず

新型コロナウイルス感染症も、季節性インフルエンザも、感染性胃腸炎も、感染対策の基本は共通です。「強がり過ぎず、恐れ過ぎず」



令和6年度 まちづくり懇談会を開催します

市との共催による「まちづくり懇談会」が開催されます。市と地域とが市政についての問題意識を共有し、盛岡市の将来像について市長と直接対話できる貴重な機会です。

懇談会のテーマは今後各地域から提案されますが、地域の皆様には積極的な参加をお願いします。

No.	開催地区	会場	開催日時	No.	開催地区	会場	開催日時	No.	開催地区	会場	開催日時
1	土 淵	土淵地区活動センター	5月24日(金)18:30	6	北 厨 川	北厨川老人福祉センター	8月6日(火)14:00	11	西 厨 川	西厨川老人福祉センター	9月2日(月)14:00
2	青 山	青山地区活動センター	7月4日(木)18:00	7	松 園	松園地区活動センター	8月9日(金)14:00	12	緑 が 丘	緑が丘地区活動センター	9月3日(火)18:30
3	築 川	築川老人福祉センター	7月5日(金)18:00	8	渋 民	渋民公民館	8月20日(火)18:00	13	仁 王	仁王老人福祉センター	10月24日(木)18:00
4	桜 城	桜城老人福祉センター	7月12日(金)14:00	9	大 慈 寺	大慈寺児童センター	8月27日(火)18:30	14	つ な ぎ	つなぎ地区活動センター	10月30日(水)18:30
5	巻 堀 姫 神	巻堀地区コミュニティセンター	7月24日(水)18:30	10	上 田	上田公民館	8月29日(木)14:00	15	み た け	みたけ地区活動センター	11月21日(木)18:00

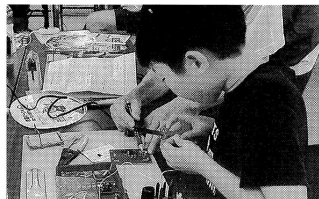
受け継がれる事業

館向町町内会(上田地区)

当町内会は、前身の「上田住宅町内会」が昭和18年に発足してから昨年度で80周年を迎えました。諸先輩が築き上げてきた種々の事業の中に文化所管の「コミュニティ学級」の開催があります。

「お薬手帳の活用法」「色彩心理学入門」「放送世界と岩手ことば」「高齢者向け施設の選び方」などの教養講話や「笑いヨガ」「シルバーリハビリ体操」など体験型も実施されました。

今年度は7月に「楽しい電波教室」が開催され、多く



の小学生が電波について学んだ後、ラジオ制作に取り組みました。配付されたキットにハンダ付け作業を行う中、子どもの後ろから「あっ違う、ここ、ここ」という声とともに手を差し出す大人がいます。作る子も見守る親も、ともに必死です。指導者の手助けを得ながら、やけど等もなく1時間半程度で全員ラジオを完成させることができました。

この事業は、メニュー選びに毎回苦慮するものですが、好評で今後も続けられる事業だと思います。

会長、副会長以外の役員は各ブロックから推薦された方の中から選出され、2年ごとに全員交代します。新役員は前任者からの引継ぎを頼りに、模索しながら事業実施に取り組みます。仕事の合間に会合を重ね、真摯に向き合う姿勢により事業は継続されています。そして、90周年に向けて進んでいきます。(佐藤進 記)

市町連広報

あのまち
このまち

令和6年2月号
No.112

我が町、今昔と地域の宝

夕顔瀬第一町内会(東厨川地区)

かつて、厨川村の村役場があった新田町地区、東北本線の開通により東西に2分され、当町内会は、新田町第一町内会、そして現在は夕顔瀬第一町内会と名称がかわっている。藩政時代から西の玄関口として秋田街道がとおり、商業機能が集積していた。明治23年になり東北本線開通と盛岡駅の開業、更に国鉄の管理局、工事局、工場と多くの国鉄職員の官舎が駅周辺に整備されたことで地域人口が増加し、昭和40年代には映画館や料亭まである市内でも有数の商店街が形成された。その後、モータリゼーションの進展や国鉄工場の廃止などにより、商店街は衰退し、商店の跡地はアパートや駐車場となって、かつての繁華な面影はほとんど残っていない。

現在の町内会会員数は160世帯であり、盛岡市でも最も小さい町内会のひとつではあるが、近くにはスーパーやコンビニなどがあり、駅も近く暮らしやすい地域だと思っている。

こんな町内会ではあるが、地域のお宝がある。それは、幕末期に江戸浅草観世音浅草寺と縁のある観音さまをお祀りしたとされるお堂(金亀山浅草観音堂)の存在である。私が子供の頃は、親しみを込めて「おがのさん」と呼んでいた。7月17日のご縁日の祭礼も盛んで夜店も軒を連ね、神輿も繰り出していた。コロナ禍が続く、簡素化も進んだが、昔からの近隣の住人にとっては、心の拠り所となっている。これからもお隣の新田町町内会の皆さんと地域の宝として次の世代につなぎたいものである。

(写真は昭和3年頃、当時の中村謙蔵市長が例大祭に来堂した時のもの)
(平野 耕一郎 記)



知恵を出し合い住みよい街づくりを

紅葉が丘町内会(山岸地区)

紅葉が丘は盛岡市初の団地として、昭和40年代に民間の開発業者により山を削り宅地造成されました。現在は約300世帯ほどの町内会ですが、年々減少の傾向にあります。また、一人暮らし世帯も増加し、空き家も目立つようになりました。

急坂のため、冬場の路面凍結で車のスリップ事故や転倒によるけが人も発生する地域でもあります。

わが紅葉が丘町内会は発足当初から多くの行事を行っており、4月の町内会総会に始まり、7月の夏祭り、9月の敬老会、12月の餅つき大会等が開催され多くの方々の参加をいただいております。ほかにも婦人部主催のお茶っこ会、老人クラブと共催の研修旅行も年に2回春と秋に実施しており、とても好評です。

今後の課題として、若い世代の参加と町内会役員のな



り手不足があり、特に役員改選期にはいつも苦勞しております。多くの若い世代に町内会行事に参加してもらうためにはどうすればいいか、頭を痛めています。何か良い成功事例があれば参考にしたいと思っています。

冬場の雪捨て場の確保、防犯カメラ設置等による防犯対策など解決すべき課題は多くありますが、これからも住民が知恵を出し合って、住みよい街、楽しい街を目標に努力していきたいと思っています。(藤澤 秀樹 記)